

## 2013年第1四半期の純利益は22億ドルと公表

- 第1四半期税引き後営業利益は20億ドル
- その他の包括利益累計額(AOCI)を除く1株当たりブック・バリューは前年同期比12%増加して59.39ドル
- 保険事業営業利益は前年同期比28%増加して30億ドル

2013年5月2日(ニューヨーク発):アメリカン・インターナショナル・グループ・インク(ニューヨーク証券取引所銘柄:AIG)(「AIG」)は本日、2013年第1四半期のAIGに帰属する純利益が22億ドル、税引き後営業利益が20億ドルになったと公表しました。これに対して、2012年第1四半期はAIGに帰属する純利益が32億ドル、税引き後営業利益が30億ドルでした。2012年第1四半期には、2012年に売却または清算したAIAグループ・リミテッド(「AIA」)、金融受け皿会社であるMaiden Lane II LLC(「ML II」)およびMaiden Lane III LLC(「ML III」)への投資の税引き前利益33億ドルが含まれていました。

2013年第1四半期のAIGに帰属する希薄化後1株当たり利益、1株当たり税引き後営業利益はそれぞれ1.49ドル、1.34ドルでした。これに対して2012年第1四半期のAIGに帰属する希薄化後1株当たり利益、1株当たり税引き後営業利益はそれぞれ1.71ドル、1.62ドルでした。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシェは以下のように述べました。「AIGの第1四半期業績は、世界中の事業が深く地域に根付いていること、私たちが提供する商品・サービスに対する市場の需要があること、投資ポートフォリオの好調なパフォーマンスを反映しています。私たちはこのような業績に満足しており、引き続き、この成功を足場として事業を進めていこうと考えており、特に2015年の意欲的な目標の達成に向けて進んでいます。」

「今年の優先事項は、オペレーションのファンダメンタルズの改善とコスト削減です。これはつまり、資本コストの低下、システムの再構築、あるいは当社にとって戦略上意味のある事業ラインと地域の重視ということですが、コスト削減とオペレーションの効率化は、AIGの全ての従業員の一番の目標です。私たちはすでに、中核事業を保険およびリタイアメント・サービスに絞り込んでいます。このようにスリム化した事業を支えるよう会社組織の変更作業を進めており、さらなるコスト削減の可能性があるかとみています。また、社員の半数が米国外で働いているグローバル企業として、私たちは業務展開している各地の能力、専門知識、機会を有効活用しています。」

ベンモシェ社長兼CEOは以下のように締めくくりました。「2013年を通じて、このような投資と懸命な努力が、どう実を結ぶか示していくつもりです。」

### 流動性、資金管理およびその他の重要な動き

- 2013年3月31日現在、AIGの株主資本は合計で995億ドルとなりました。
- 2013年第1四半期にAIGは、下位劣後債11億ドルの償還を繰り上げ、現金による公開買い付けにより約13億ドルで元本約10億ドルの債券を購入しました。この結果、年間の支払利息は1.65億ドル減少する予定です。
- 2013年第1四半期の、子会社AIGライフ・アンド・リタイアメントから、親会社AIGへの現金配当および借入金返済は、合計13億ドルでした。
- 2013年3月31日現在、親会社AIGの流動資金は約150億ドルとなりました。これには、将来満期を迎える債務と、直接投資およびグローバル・キャピタル・マーケットでの偶発的な

流動性逼迫に対する必要資金への配分 55 億ドルを含みます。

- 2013 年第 1 四半期に、AIG は 2008 年、2009 年に米国財務省に対して発行したワラントの買戻しを完了しました。

### 税引き後営業利益（損失）

（単位：百万米ドル）

	第 1 四半期	
	2013 年	2012 年
保険事業：		
AIG プロパティ・カジュアリティ	\$1,589	\$1,043
AIG ライフ・アンド・リタイヤメント	1,394	1,311
モーゲージ保証保険（その他の事業に計上）	41	8
<b>保険事業合計</b>	<b>3,024</b>	<b>2,362</b>
直接投資	329	(156)
グローバル・キャピタル・マーケッツ	227	92
AIA の公正価値の増減（実現益を含む）	-	1,795
金融受け皿会社（ML III）の公正価値の増加	-	1,252
支払利息	(397)	(381)
<b>全社費用およびその他</b>	<b>(322)</b>	<b>(252)</b>
<b>税引き前営業利益</b>	<b>2,861</b>	<b>4,712</b>
法人税経費	(854)	(1,425)
非支配的持分－米国財務省	-	(208)
<b>その他非支配的持分</b>	<b>(25)</b>	<b>(33)</b>
<b>AIG に帰属する税引き後営業利益</b>	<b>\$1,982</b>	<b>\$3,046</b>

### AIG プロパティ・カジュアリティ

AIG プロパティ・カジュアリティの 2013 年第 1 四半期の営業利益は、事業利益と正味投資利益の両方が増加したことから、前年同期が 10 億ドルの利益であったのに対し、16 億ドルとなりました。引受利益改善の要因となったのは、ポートフォリオ構成のシフト、引受改善措置の恩恵によるリスク選択の強化、料率の引き上げです。

2013 年第 1 四半期のコンバインド・レシオは、前年同期が 102.1 であったのに対し、97.3 となりました。2013 年第 1 四半期業績には、小幅な異常災害損失 4,100 万ドルと、前年からの正味でのプラスの影響 5,200 万ドルが含まれています。2013 保険事故年度第 1 四半期の調整済み損害率は、付加価値の高い事業へのシフト、リスク選択の強化、価格引き上げにより、前年同期の 66.3 から 63.2 に改善しました。2013 年第 1 四半期の取得費率は 19.7 となり、前年同期から 0.5 ポイント低下しました。一般営業費率は 14.3 となり、前年同期から 0.4 ポイント上昇しました。2013 年第 1 四半期中、戦略的措置への投資を続け、退職金およびその他人件費は増加しましたが、貸し倒れ損失が前年同期比で減少したことで一部相殺されました。

2013 年第 1 四半期の正味収入保険料は 84 億ドルで、前年同期比 4.3%の減少となりました。これは、2013 年第 1 四半期に、超過損害再保険契約の出再保険料を、契約期間にわたって定率で計上するのではなく、契約開始時に計上したことによる影響、主に対円でのドル高を要因とする為替レート、キャットボンド発行のタイミングを反映しています。これらの項目を除くと、2013 年第 1 四半期の正味収入保険料は前年同期比で 4.0%増加しました。上記の項目による影響を除いたコマーシャル・インシュアランス事業の正味収入保険料は、前年同期比 3.8%の増加となりました。付加価値の高い商品と地域における増加は、特に米国の損害保険におけるリスク選択の改善に向けた継続的な取り組みにより一部相殺されました。上記の項目による影響を除いたコンシューマー・インシュアランス事業の正味収入保険料は、前年同期比で 4.2%増加しました。コンシューマー・インシュアランス事業では、成長中の付加価値の高い事業に引き続き重点を置く一方で、マルチ販売チャネル戦略の一環として、ダイレクト・マーケティングを拡大させました。

コマーシャル・インシュアランス事業の 2013 年第 1 四半期の営業利益は 10 億ドル、コンバインド・

レシオは92.2となりました。これに対して、2012年第1四半期の営業利益は6.45億ドル、コンバインド・レシオは101.7でした。2013保険事故年度第1四半期の調整済み損害率は、主に付加価値の高い事業へのシフト、リスク選択の強化、価格引き上げにより、前年同期の70.3から65.4に改善しました。2013年第1四半期の取得費率は16.3で、前年同期より1.7ポイント低下しました。2013年第1四半期の一般営業費率は11.0で、前年同期より0.4ポイント低下しました。

コンシューマー・インシュアランス事業の2013年第1四半期の営業利益は1.53億ドル、コンバインド・レシオは98.4となりました。これに対して、2012年第1四半期の営業利益は2.34億ドル、コンバインド・レシオは96.7でした。2013保険事故年度第1四半期の調整済み損害率は、前年同期が58.4であったのに対して、58.8となりました。2013年第1四半期の取得費率は24.9で、コンシューマー・インシュアランスの事業構成の変更とダイレクト・マーケティングへの投資の増加で、前年同期より1.2ポイント上昇しました。2013年第1四半期の一般営業費率は15.7で、前年同期より0.8ポイント上昇しました。この主な要因となったのは、人件費と、成長国での戦略的拡大です。

## AIG ライフ・アンド・リタイヤメント

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの2013年第1四半期の営業利益は、前年同期が13億ドルであったのに対して、14億ドルとなりました。2013年第1四半期業績は、株式市場が堅調で投資利益が増加した影響、運用資産の大幅な増加、手数料ベースの事業の利益の増加を反映しています。また継続的なスプレッドの積極的管理や死亡率の低下により恩恵を受けました。2013年第1四半期中にAIG ライフ・アンド・リタイヤメントは、リテールおよび機関投資家向け事業のセグメントの新設を反映して、財務報告を変更しました。

2013年第1四半期の正味投資利益は、前年同期からほとんど変わらず、金融受け皿会社（ML II）の評価益2.46億ドルを含む、29億ドルとなりました。2013年第1四半期の正味投資利益は、オルタナティブ投資による利益の増加と、中国人民保険集団（PICC）への投資の評価益3,100万ドルなど有価証券の公正価値の増加から恩恵を受けました。2013年第1四半期の基礎投資利回りは5.3%となり、これに対して前年同期は5.5%、前年度第4四半期は5.3%でした。これは、低金利環境、またキャピタル・ロスの繰り越し額を穴埋めするために高利回りの債券を有利な機会で売却したことを反映しています。新契約の料率に関する措置や更新保証利率の引き下げなどスプレッドの積極的管理によって、基礎投資利回りの低下による影響を相殺しました。

2013年第1四半期末現在の運用資産は、前年同期の2,650億ドルから12%増加して2,970億ドルとなりました。これは、株式相場上昇による分離勘定のパフォーマンス好調と、主に2012年第4四半期に開始されたグローバル・キャピタル・マーケットからAIG ライフ・アンド・リタイヤメントへのステーブル・バリュー・ラップ契約の移管額である名目元本124億ドルによるものです。

2012年、2013年いずれの第1四半期の収入保険料、預かり資産も、計56億ドルとなりました。個人向け変額年金の預かり資産は、2013年第1四半期に前年同期の11億ドルより31%増加して、14億ドルとなりました。2013年第1四半期に定額年金の預かり資産は、前年同期から36%減少して、3.76億ドルとなりました。これは、金利に敏感な商品での新規契約の料率に関して規律あるアプローチをとったことを反映しています。

リテール・セグメントの2013年第1四半期の営業利益は、前年同期から8%増加して8.21億ドルとなりました。この要因となったのは、スプレッドの改善、保険証券発行手数料収入と投資利益の増加、死亡率の低下です。

機関投資家セグメントの2013年第1四半期の営業利益は、前年同期から4%増加して5.73億ドルとなりました。これは主に、投資収益の好調とスプレッドの積極的管理によるものです。

2013年第1四半期において、子会社AIG ライフ・アンド・リタイヤメントから親会社AIGへの現金配当と借入金返済は13億ドルでした。

## モーゲージ保証保険

AIG のモーゲージ保証保険事業であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) は、前年同期の 800 万ドルの営業利益に対して、2013 年第 1 四半期には 4,100 万ドルの営業利益を計上しました。また、2013 年第 1 四半期業績には、正味既経過保険料が増加となり、全体的に緩やかな成長が見られました。

2013 年第 1 四半期の正味収入保険料は、前年同期の 1.91 億ドルに対して、2.46 億ドルとなりました。国内の第一抵当権付保険契約の新規引受け（保険付き融資元本）は、前年同期が 65 億ドルであったのに対して、106 億ドルとなりました。この主な要因は、モーゲージのオリジネーションの増加、販売チャネルの追加および拡大です。高い質を保ち、新規契約の平均 FICO スコアは 757、平均借入金比率は 90%でした。2013 年第 1 四半期の国内第一抵当権融資全体の返済延滞率は、前年同期の 11.4%から 7.9%に低下しました。

## その他の事業

AIG のその他の事業（モーゲージ保証保険を含む）の営業損益は、前年同期が 23 億ドルの利益であったのに対して、2013 年第 1 四半期には 1.52 億ドルの損失を計上しました。これは、以前保有していた AIA および ML III への投資による利益 30 億ドルを含みます。

## カンファレンス・コール

AIG は、2013 年 5 月 3 日午前 8 時（米東部時間）より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト (<http://www.aig.com>) でリアルタイムで聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

AIG の補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

#####

## 将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール（カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます）、決算報告、決算補足資料には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。また AIG の役員および代表が随時これらを作成する場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション (ILFC) に対する AIG 持分の現金化（これには最大で 90%の ILFC に対する持分の売却が完了しているかどうか、完了している場合には、かかる売却の時期と最終的な条件が含まれます。）、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対する AIG のエクスポージャー、欧州の政府および金融機関に対する AIG のエクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、AIG による配置可能な資本の創出、AIG の株主資本利益率および 1 株当たり利益の長期の意欲的な目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関する AIG の戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略、そして AIG 子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の見解、目標、仮定や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、市場環境の変化、天災および人災による異常災害の発生、重要な法的手続き、貯蓄貸付持株会社として、またそのように判断された場合には、システム上重要なノンバンク金融機関として、AIG が対象となる新たな規制の枠組みの導入時期および適用要件、AIG の投資ポートフォリオにおける集中、格付け機関の動向、損害保険の引受けならびに保険債務に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、2013 年 3 月 31 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書のパート I 項目 2（「経営陣による財務状況と業績の検討および分析 (MD&A)」）、

および2012年12月31日末のAIGのフォーム10-Kによる年次報告書のパートI項目1A(「リスク要因」、パートII項目7(MD&A))で取り上げられている事項などがあります。AIGは、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

#####

## 規定Gに関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、最も良く表し、最も透明性が高いと考えられる方法で財務状態および業績を示しています。一部の数値には、証券取引委員会の規則および規制による「非GAAP型の財務数値」が用いられています。GAAPとは「米国において一般に認められた会計原則」のことです。AIGが表示する非GAAP型の財務数値を、他の企業が公表している同様の名称の数値と比較することはできません。本リリース中の関連した表、あるいはAIGのウェブサイト(www.aig.com)の投資家向けセクションで閲覧可能な2013年第1四半期補足財務情報には、非GAAP型の財務数値から規定Gに基づく最もGAAPに類似した数値への調整が示されています。

その他の包括利益(損失)累計額(AOCI)を除く普通株式1株当たりブック・バリューは、AIGの1株当たりの純資産額を示すために用いられています。AOCIを除く普通株式1株当たりブック・バリューは、売却可能ポートフォリオの公正価値や外貨換算調整など期間によって大幅に変動することがある非現金項目の影響を除外しているため、投資家にとって有益な非GAAP型の指標だと考えます。AOCIを除く普通株式1株当たりブック・バリューは、AOCIを除く株主資本合計を、発行済み普通株式数で除したものです。

AIGは、継続事業の基本的な収益性と、AIGおよび事業セグメントのトレンドをより良く理解することができるため、以下の業績指標を用いています。これらによって競合する保険会社との比較がより有意義なものになると考えています。

AIGに帰属する税引き後営業利益(損失)は、AIGに帰属する純利益(損失)から以下の項目を除きます。これは、非継続事業の利益(損失)、事業売却による純損失(利益)、事業売却による利益、主に不確実な税務ポジションの変更に関連する従来の税務調整(FIN48)およびその他の税金に係る調整、「過去の危機に関する問題」についての訴訟損失引当金(和解金)、繰延税金評価引当金(減算)、生前給付債務をヘッジするためのAIGライフ・アンド・リタイアメントの債券の公正価値の変動、給付積立金の増減と繰延保険獲得費用(DAC)、獲得事業価値(VOBA)、正味実現キャピタル・(ゲイン)ロスに関連する販売促進資産(SIA)の価値、負債の償却損(益)、正味実現キャピタル・(ゲイン)ロス、また正味実現キャピタル・(ゲイン)ロスを除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引、割引購入の利益です。「過去の危機に関する問題」には、2008年9月の流動性危機につながる出来事、ならびにこの結果生じた出来事に関連する有利な、および不利な和解、またかかる法的事項に関連する原告としてAIGが負担した弁護士費用が含まれます。AIGに帰属する純利益のAIGに帰属する税引き後営業利益への調整については、10ページを参照してください。

AIGプロパティ・カジュアリティの営業利益(損失)には、事業利益(損失)、正味投資利益が含まれますが、正味実現キャピタル(ゲイン)ロス、その他(収入)費用、上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金、割引購入の利益は含まれません。事業利益(損失)は、正味既経過保険料から、請求および請求調整費用、取得費用、一般営業費を差し引いたものです。

AIGプロパティ・カジュアリティは、ほとんどの損害保険会社と同様に、引受の成果を示す指標として損害率、経費率、コンバインド・レシオを用いています。これらの比率は相対的な指標で、正味既経過保険料100ドルに対する請求および請求調整費用と負担するその他引受費用を示しています。コンバインド・レシオが100を下回る場合は事業利益、100を超える場合は事業損失を示します。訴訟活動の程度と同様に、引受環境は国や商品によって異なり、そのすべてがこれらの比率に影響を及ぼします。さらに投資利益、現地税、資本コスト、規制、商品の種類、競争が、料率、その結果、事業利益および関連比率に反映されているように収益性に影響を及ぼします。

AIGプロパティ・カジュアリティの保険事故年度の調整済み損害率は、異常災害損失、関連する復活保険料、前年の動向、保険料調整の控除、準備金の割引による影響を除外した損害率です。異常災害損失はほとんどが天候や地震に関する出来事で、AIGプロパティ・カジュアリティへの正味での影響はそれぞれ1,000万ドルを超えました。

AIGプロパティ・カジュアリティの保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオは、異常災害損失、関連する復活保険料、前年の動向、保険料調整の控除、準備金の割引による影響を除外したコンバインド・レシオです。

AIGライフ・アンド・リタイアメントの営業利益(損失)は、純利益(損失)から次の項目を除外したものです。これは、上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金、生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動、正味実現(利益)損失、給付積立金の変動、正味実現(利益)損失に関連するDAC、VOBA、SIAです。

これらの変動が大きな項目を除くと、継続事業の業績が強調されて投資家は基本的な事業の業績をより良く評価できるため、営業利益（損失）は有益だと考えます。

AIG ライフ・アンド・リタイアメントの収入保険料、預かり資産には、生命保険収入保険料、および年金契約、保証投資契約（GIC）、ミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。

その他営業利益（損失）は、上述の過去の危機に関する問題に関連する特定の法定責任準備金（訴訟和解金）、債務消滅における（利益）損失、正味実現キャピタル（ゲイン）ロス、事業および資産の売却の純（利益）損失、事業売却の利益です。

非継続事業の業績は、これらすべての数値から除外されています。

#####

AIG グループは、世界の保険業界のリーダーであり、130 以上の国で顧客にサービスを提供している。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供している。このほか、米国においては生命保険事業、リタイアメント・サービスの事業も展開している。持株会社 AIG, Inc. はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場している。

AIG, Inc. の追加情報については [www.aig.com](http://www.aig.com) | You Tube : [www.youtube.com/aig](http://www.youtube.com/aig) | Twitter : @AIG\_LatestNews | LinkedIn : <http://www.linkedin.com/company/aig> | を参照されたい。

AIG とは、AIG, Inc. 傘下の全世界の損害保険、生命保険、リタイアメント・サービス事業ならびに一般的な保険事業のマーケティング名である。より詳細な情報については当社のホームページ（[www.aig.com](http://www.aig.com)）を参照されたい。全ての商品およびサービスは AIG, Inc. 傘下の子会社または関連会社により引き受けまたは提供されている。これら商品およびサービスは一部の地域では利用できない可能性があり、実際の契約に準拠する。保険以外の商品・サービスは、独立した第三者によって提供されることがある。一部の損害保険の補償については、サープラス・ラインの保険会社によって提供される可能性がある。サープラス・ラインの保険会社は、一般的に米国州政府保証基金に加入しないため、当該基金による保証は行われたい。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト\*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

3月31日までの3ヶ月間

	2013年	2012年	増減(%)
<b>AIG プロパティ・カジュアリティの事業：</b>			
正味収入保険料	\$ 8,437	\$ 8,820	(4.3) %
正味既経過保険料	8,558	8,688	(1.5)
請求および請求調整費用	5,413	5,909	(8.4)
取得費用	1,688	1,757	(3.9)
一般営業費用	1,226	1,202	2.0
事業利益 (損失)	231	(180)	-
正味投資利益	1,358	1,223	11.0
<b>営業利益</b>	<b>1,589</b>	<b>1,043</b>	<b>52.3</b>
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	12	(135)	-
その他の利益	3	2	50.0
<b>税引き前利益</b>	<b>\$ 1,604</b>	<b>\$ 910</b>	<b>76.3</b>
		\$	
損害率	63.3	68.0	
取得費率	19.7	20.2	
一般営業費率	14.3	13.9	
コンバインド・レシオ	97.3	102.1	
<b>AIG ライフ・アンド・リタイアメントの事業：</b>			
収入保険料の売上	\$ 620	\$ 614	0.9
保険証券発行手数料	615	584	5.3
正味投資利益	2,877	2,885	(0.3)
その他の利益	393	304	29.3
収入合計	4,505	4,387	2.7
給付および費用	3,111	3,076	1.1
<b>営業利益</b>	<b>1,394</b>	<b>1,311</b>	<b>6.4</b>
訴訟和解金	108	-	-
生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動、支払利息を除く	(29)	(19)	(54.7)
給付金積立金の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA	(59)	36	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	156	(466)	-
<b>税引き前利益</b>	<b>\$ 1,570</b>	<b>\$ 862</b>	<b>82.1</b>
<b>その他の事業、営業利益 (損失)</b>	<b>(152)</b>	<b>2,328</b>	<b>-</b>
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前 税引き前利益 (損失)	(501)	2,319	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (a)	87	417	(79.1)
会社間連結・消去調整 (a)	72	(42)	-
<b>継続事業の税引き前利益</b>	<b>2,832</b>	<b>4,466</b>	<b>(36.6)</b>
タックス・エクスペンス	694	1,081	(35.8)
<b>継続事業の純利益 (損失)</b>	<b>2,138</b>	<b>3,385</b>	<b>(36.8)</b>
非継続事業の利益、税引き後	93	64	45.3
<b>純利益</b>	<b>2,231</b>	<b>3,449</b>	<b>(35.3)</b>
<b>控除：</b>			
<b>非支配的持分に帰属する継続事業の純利益：</b>			
非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	-	208	-
その他	25	33	(24.2)
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益	25	241	(89.6)
<b>AIG に帰属する純利益</b>	<b>2,206</b>	<b>3,028</b>	<b>(31.2)</b>

## 財務ハイライト（続き）

	3月31日までの3ヶ月間		
	2013年	2012年	増減(%)
<b>AIG に帰属する純利益</b>	\$ 2,206	\$ 3,208	(31.2) %
<b>AIG に帰属する税引き後営業利益の調整（税引き後）</b>			
非継続事業の利益	(93)	(64)	(45.3)
事業売却の純損失	-	2	-
従来の FIN による項目およびその他の税金の調整	626	-	-
過去の危機に関する問題に関連する訴訟損失引当金（和解金）	(64)	4	-
繰延税金資産評価引当金減算	(786)	(293)	(168.3)
生前給付債務をヘッジするための有価証券の公正価値の変動	19	12	58.3
給付積立金の増減と、正味実現キャピタル・(ゲイン) ロスに関連する DAC、VOBA、SIA	54	(23)	-
負債の償却損	221	-	-
正味実現キャピタル・(ゲイン) ロス	(201)	199	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引、正味実現キャピタル・ロスを除く	-	1	-
<b>AIG に帰属する税引き後営業利益（損失）</b>	\$ <u>1,982</u>	\$ <u>3,046</u>	(34.9)
<b>普通株式1株当たり利益 - 希薄化後：</b>			
<b>AIG に帰属する純利益</b>	\$ <u>1.49</u>	\$ <u>1.71</u>	(12.87)
<b>AIG に帰属する税引き後営業利益</b>	\$ <u>1.34</u>	\$ <u>1.62</u>	(17.14)
<b>1株当たりブック・バリュー(b)</b>	\$ 67.41	\$ 57.68	16.87
<b>その他の包括利益累計額を除く1株当たりブック・バリュー (c)</b>	\$ 59.39	\$ 53.11	11.83 %
<b>株主資本利益率 (d)</b>	8.9%	12.5%	
<b>その他の包括利益累計額を除く株主資本利益率(e)</b>	10.2%	13.5%	
<b>株主資本利益率—税引き後営業利益 (f)</b>	9.2%	12.8%	

### 財務ハイライト特記事項

\* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない、為替差損益を含むヘッジ取引からの利益（損失）を含んでいます。
- AIG 株主資本合計を発行済み株式で割ったものを示しています。
- その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 株主資本合計を発行済み株式で割ったものを示しています。
- AIG に帰属する実際または年間の純利益（損失）を、AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- AIG に帰属する実際または年間の純利益（損失）を、その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- 実際または年間の税引き後営業利益を、その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。